## 北陸から来た縄文文化

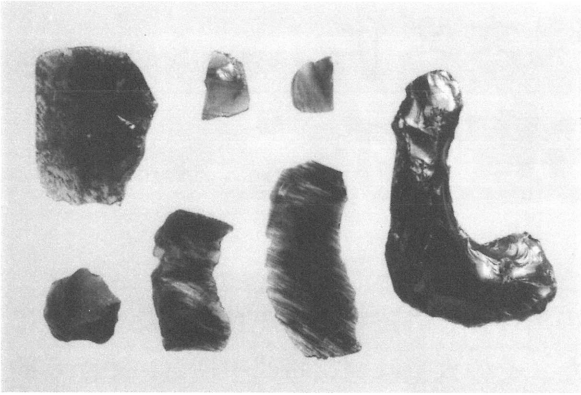
# 筑摩佃遺跡

発掘調査では、現在の地面から約４ｍ下で、縄文時代の沼（河川）の跡が見つかりました。近くには、縄文時代の土器や石器がたくさん捨てられていました。その大半は縄文時代中期（いまから約4,500年ぐらい前）のものでした。さらに、出土した土器の半数が北陸地方を中心に分布する新保式、新崎式と呼ばれる土器型式のもので、長野県や隠岐島原産の黒曜石も出土していることから、当時から米原市が近畿と北陸、さらに東西交流の接点であったことを物語っています。

筑摩佃遺跡でもっとも注目される遺物に土偶（市指定文化財）があります。土偶は縄文時代だけに製作された祭祀用の土人形で、多くが女性をかたどっており、妊婦の姿が多いことから、安産や多産、さらに豊穣を願ったものとも、災いを除けるための呪術に使用されたともいわれています。土偶は縄文時代を代表する遺物で、北海道から九州に至る各地で出土していますが、とくに東日本に濃密に分布しています。滋賀県を含む近畿地方は、土偶出土の希薄な地域で、その造形も東日本に比べるとシンプルです。筑摩佃遺跡の土偶は「河童型土偶」と呼ばれるもので、皿状の頭部と表情が河童に似ていることから名づけられました。富山県を中心に北陸と中部山岳地方に集中して出土しています。土偶に伴う中期の土器群には北陸の土器が目立つことから、この土偶を祀る北陸の人々が移住してきた村だったのかもしれません。

河童型土偶

平成24年度 市内遺跡保存活用事業

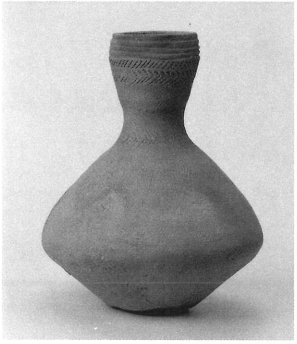


黒曜石　長野県霧ヶ峰、小笠原諸島神津島産

## 弥生時代・奈良時代の遺構や遺物

縄文時代の遺構面の上層からは、弥生時代の集落の周りにめぐらされていたと考えられる環濠(堀)、方形周溝墓と呼ばれる溝に囲まれた墓や土坑墓、川の護岸施設などが見つかりました。これらの遺構からは、さまざまな文様をもつ弥生時代中期を中心にした土器のほかに、玉作りの石器や青銅製のやじりなどが出土しています。

奈良時代の遺物で注目されるのが、斎串と木簡です。斎串は鳥のような頭部をもつ薄い木の板で、祭祀に使われ100枚近く出土しています。木簡は役人の手習いに使われたものです。

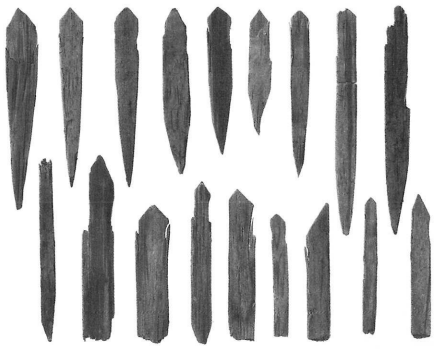


弥生土器

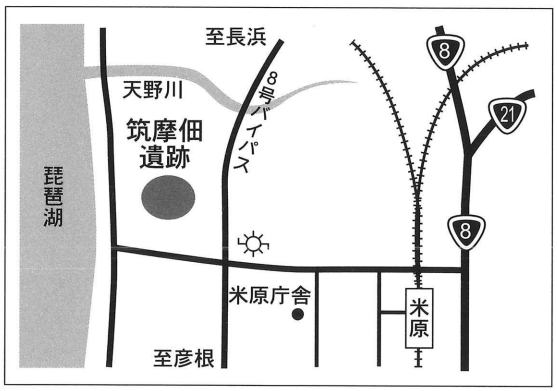
弥生土器

筑摩佃遺跡位置図

習字木簡出土状況



斎串




## 筑摩佃遺跡

■ 所 在 地　滋賀県米原市朝妻筑摩

■ アクセス　JR東海道線米原駅下車。徒歩約30分。
※現況は水田です。


**米原市教育委員会**

滋賀県米原市長岡1050-1　TEL.0749-55-8020



平成24年度 市内遺跡保存活用事業